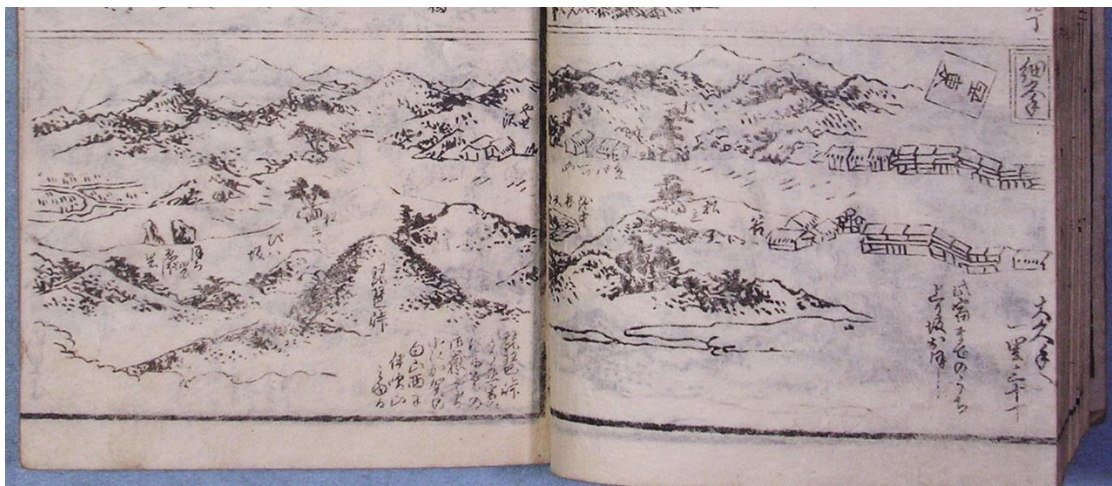


(4)『東海木曾両道中懷宝図鑑』[天保13年(1842)]

東海道(上段)、中山道(下段)の道程を簡易な図と解説文でまとめた携帯用の道中記ですが、図は左側を東、右側を西として描いているため注意が必要です。



[細久手宿～御嶽宿]



[大湫宿～細久手]



[大井宿～大湫宿]

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…（記載なし） ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
〔細久手宿～御嶽宿〕 ① 左頁の中央付近に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。また、その左側（東方）に平岩村の記載がある。 〔大湫宿～細久手宿〕 ② 細久手宿の左側（東方）、右頁の中央付近に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。 ③ 右頁の左端、左頁の右端付近に一ツ立場、やせ沢と記され、弁天池も描かれる。 ④ 左頁に琵琶坂と琵琶峠、その左側（東方）に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。また、その左側（東方）に一里塚が烏帽子岩・母衣岩が描かれる。 〔大井宿～大湫宿〕 ⑤ 右頁の大湫宿の下側（北方）に神明社と記され、大杉と思しい樹木が2本描かれる。 ⑥ 右頁の大湫宿の左側（東方）寺坂、山神坂と記され、その左側（東方）に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。 ⑦ 大湫（大久手）より大井の間を十三峠という、坂が多い。との記載あり。
その他
① 琵琶峠から見える眺望などを解説。

（５）『新撰美濃志』

尾張藩士の岡田文園が天保年間（1830 年-1843 年）に記した全 30 巻の歴史地理誌です。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…（記載なし） ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
② 十三嶺（十三峠）は大湫宿と大井宿の間にあり、上り下りが多いことから名付けられた。しかし、実際はさほど険しくはない。 ③ 琵琶坂（琵琶峠）は岩石が多く、坂の下には烏帽子岩・母衣岩という大岩がある。坂の上からは丑寅（北東）に木曾の御嶽が見える。北に加賀の白山が飛騨の山あいから見える。西に伊吹山が見える。
その他
① 琵琶峠は、烏丸光榮卿の「打出浜記」にも出名することを、文書を引用して解説